



説教要旨 「抜け目のない管理人」

ルカによる福音書 16 章 1～13 節

主人の財産を無駄遣いしている管理人がいて、そのこと告げ口され主人の監査を受けることになりました。不正が露見して処罰を受けることはもはや避けられません。窮地に追い込まれた管理人ですが、「自分を家に迎えてくれるような者たちを作れば良いのだ」(4 節) という妙案を思い付き、莫大な借財を抱えている者の証文を書換えて額を軽減したのです。毒をくらわば皿までと、不正に不正をを重ねて主人に更なる損害を与える、といったたとえ話をイエス様は話されました。そして、「不正にまみれた富で友達を作りなさい」(9 節)。と教えられたのです。

ここで“富”と訳されているのは原語のマーモーンという言葉で、もともとはアーマーン「人が頼みとするもの」「信頼に値する」といった意味の言葉が使われています。この“富”とは私たちが生きる上で頼りにしているものです。それは財産、お金に限らず、肉体や才能、学んで身に着けた知識や教養、培った技術や資格など、私たちの持っているすべてのことがこの“富”に含まれています。私たちはそれらの“富”に頼らなければ生きていけないのです。

ファリサイ派の人々、律法学者たちが頼っていた「富」。それは「律法」でした。「律法」さえ忠実に守っていれば大丈夫、神様の救いに与れる。そう信じていたのです。しかしいつしか彼らは、律法を与えてくださった神様に頼るのではなく、律法そのものに頼るようになっていったのです。

不正にまみれた富。それは、わたしたちが最終的な信頼をおけない富です。しかしそれは、潔癖に自分から遠ざけるようなものではありません。この不正にまみれた富もまた、神様が私たちに与えてくださったものなのです。それが真に頼るべきものではないことをしっかりと見つめた上でその富を用いていくことなのです。

私たちが唯一頼るべきはすべてを与えてくださる神様です。そしてこの神様は、赦されようのない罪を犯した、あの放蕩息子をも無条件で赦し、受け入れてくださる愛の神なのです。

(2019・11・24 説教者：稲垣真実)